

令和3年度 労災疾病臨床研究事業費補助金
ストレスチェックの集団分析結果に基づく職場環境改善の促進を目的とした
調査項目及びその活用方法論の開発
(190501-01)

研究代表者：	井上 彰臣	産業医科大学 I R 推進センター・准教授
研究分担者：	堤 明純	北里大学医学部・教授
	江口 尚	産業医科大学産業生態科学研究所・教授
	渡辺 和広	北里大学医学部・講師
	岩田 昇	桐生大学医療保健学部・教授
	小田切優子	東京医科大学医学部・講師

研究目的

労働者のメンタルヘルス対策の一次予防として、職場環境改善が有効であるという科学的根拠が蓄積されている。わが国では、ストレスチェック制度が義務化されて6年が経過し、努力義務である集団分析の結果を活用した事業場の割合は51.7%（平成29年10月末時点）と報告されているが、第13次労働災害防止計画では、ストレスチェックの集団分析結果を活用した職場環境改善の更なる普及が求められている。これまでに、集団分析結果の返却ツールとして「仕事のストレス判定図」が開発されているが、その内容は限定的であり、十分に活用されていないのが現状である。また、「職業性ストレス簡易調査票」の57項目だけでは、多様な事業場の課題を包含しきれていないと言いきれない。そこで本研究では、集団分析結果を活用した職場環境改善を更に普及させるとともに、多様な事業場の課題にも対応できるよう、「多くの調査項目の中から、各事業場が自ら必要な項目を選定する」ことをコンセプトに、大量の調査項目プールを作成し、その中から各事業場が必要な項目を容易に選定できるような活用方法論を開発することを目的とする。

研究方法

3年計画の3年目である令和3年度は、1. 調査項目案の活用に関する架空事例の作成およびコンピュータ適応型テスト（Computerized Adaptive Testing : CAT）の使用感に関する調査、2. CATシステムの労働現場への実装化に向けた終了条件（ストップルール）の検討、3. CATを用いたストレスチェック実施後の職場環境改善ヒント集の作成、4. CATのインターフェースに関するヒアリング調査、5. 労働安全衛生マネジメントシステム（Occupational Safety and Health Management System : OSHMS）を取り入れた活用方法論の開発を行った。

研究成果

1. 昨年度までに作成した調査項目プールの中から、組織レベルのストレス要因を測定するために作成した「持続的な成長」および「Well-being の重視」を選択し、架空事例の作成と事例の漫画化を行った。並行して、人事労務担当者および産業保健スタッフに（一部の事業場では労働者にも）CAT の試用を依頼し、実際の現場における CAT の使用感を把握するための自記式調査を行い、その有用性を確認した。

2. 昨年度までに作成した CAT の実装化に向けて、調査項目プール1「仕事に対する前向きな考え」の10項目を用い、CAT を実際に起動しなくても、CAT での測定過程が再現できるマクロを組み、昨年度の WEB 調査で取得した 2,000 名分の回答データを用いてシミュレーションを行った。その結果、回答者の約 3/4 が5項目までで測定終了となる se (θ 値の標準誤差) < 0.30 付近の精度が適正で、測定項目数の上限は設定しないという条件が現実的であると考えられた。

3. CAT を用いてストレスチェックを実施した後に、集団分析結果を活用しながら職場環境改善を行うためのアクションについて、昨年度までに作成した調査項目プールの内容を参考にし、職場環境改善の専門家の協力を得て、合計 439 の職場環境改善のアクション（ヒント集）を作成した。

4. CAT の使用感に関する自記式調査に参加した事業場のうち、労働者に対して CAT を試用した事業場の人事労務担当者（3名）を対象に、実際の使用や集団分析結果のフィードバックを受けた経験を踏まえてヒアリング調査を行った。

5. OSHMS の枠組みで CAT を活用して自律的・計画的に職場環境改善を進めていくためのマニュアルを作成した。マニュアルの構成は（1）項目の選定、（2）CAT を用いたストレスチェックの実施、（3）職場環境改善の実施、（4）再評価、（5）Q&A とし、調査項目セットおよび調査項目プールの一覧、職場環境改善の参考となる事例（前述の漫画化した架空事例）等を付して最終版とした。

結論と今後の展望

「研究方法」で挙げた5つの研究課題について、概ね当初の計画通りに遂行することができた。今年度は、昨年度までに作成した CAT のプロトタイプを複数の事業場で試用し、CAT の有用性を確認した。また、ステークホルダーから挙げられた意見等を踏まえ、各事業場が OSHMS の枠組みで CAT を活用して自律的・計画的に職場環境改善を進められるよう、架空事例や CAT の具体的な実施方法を盛り込んだ「CAT を用いて自律的な職場環境改善を実施するためのマニュアル」を完成させた。さらに、CAT の実施後に集団分析結果を活用しながら職場環境改善を行うための具体的なアクションを記したヒント集も作成した。今後、本研究班で作成したこれらのツールの普及が期待される。